

JMMAF ルール

第一条 試合時間

ワンマッチの試合を

【Aクラスルール】 ワンマッチの試合を3分2ラウンド

【Cクラスルール】 5分1ラウンドもしくは2ラウンド

第二条 服装(全て審判員の認可するものとする)

以下の競技用具を各ルールに参加する選手は必ず着用する

- 【ヘッドギア】A
- 【オープンフィンガーグローブ】A
- 【ニーパット】A
- 【レガース】A
- 【スパッツ】A・C
- 【コンバットシューズ】Cのみ着用可
- 【ファールカップ】A(ムエタイカップのみ可)
C(プラスチック製も可)
- 【マウスピース】A
- 【レスリングシューズ】Cのみ着用可

第三条 勝敗

【A・C 共通】

- ・絞め技、関節技によるタップアウト、意識の喪失による一本勝ち。
- ・全ての攻防においてレフリーが危険と判断した場合のレフリーストップ。
- ・全ての攻防においてドクターが危険と判断した場合のドクターストップ。
- ・打撃、テイクダウンによるKO勝ち。
- ・反則による失格負け。
- ・判定による判定勝ち。
- ・セコンドのタオル投入によるTKO負け。

第四条 反則

【A・C 共通】

1. 頭突き
2. 全ての肘による打撃攻撃
3. 股間へのあらゆる攻撃
4. 脊椎や後頭部への打撃攻撃
5. 喉へのあらゆる打撃(気管を掴む行為を含む)
6. 踵を使つての腎臓への蹴り

7. 両者または一方の競技者がグラウンドポジション（足の裏以外がマットについている状態）にあるときの顔面への一切の打撃攻撃
8. 相手競技者がグラウンドポジションから立ち上がる瞬間を狙ってのキック攻撃。ただしグラウンドポジションの競技者がそこから攻撃に移行している場合は可能とする。
9. 相手を踏みつける打撃攻撃
10. 相手の頭や首をキャンバスに突き刺す（いわゆるスパイクイング）
11. 試合場外に相手を故意に出す
12. 試合場外に故意に出る
13. 小さな関節(手足の指)への攻撃
14. フィッシュフッキング
15. 相手の体の開口部や傷口、裂傷部に指を入れる
16. 皮膚を掴む、つまむ、ひねる
17. 鎖骨を掴む
18. フェンスや試合場を構成する部位を掴む
19. 相手のショーツやグローブを掴む
20. 噛み付く
21. 相手に唾を吐く
22. 髪を引っ張る
23. 試合場内で口汚い言葉を吐く
24. 審判の指示を著しく無視する
25. 審判員に対する虚偽のアピール、言動。
26. ブレイク中の相手への攻撃
27. レフェリーのチェックを受けている最中の相手への攻撃
28. ラウンド終了の合図が鳴らされたあとでの相手への攻撃
29. 相手の負傷の原因となるようなあらゆる非スポーツマン的行為
30. 相手との接触を避けるあらゆる消極的な姿勢(意図的または継続してマウスピースを落とす、怪我のふりをするなど)
31. 塗布物を塗布する行為
32. 試合前に審判員によるチェックを受けていないテーピングや競技用具の着用。
33. 試合用コスチューム、マウスピース、ファウルカップ等の競技用具を破損し、試合続行を不可能にする行為。

【A クラスルール】

- ・ ヒールホールド

【C クラスルール】

- ・ 全ての打撃攻撃は禁止

第五条 試合進行

【A・C 共通】

1. 以下の場合レフェリーによりブレイクとコールされる。ブレイクのコールを受けた場合、競技者は速やかに攻防をやめ、相手から離れ、スタンドの状態に戻らなくてはならない。

- ・ 試合が膠着し動きが止まったまたはこれ以上の進展がないとレフリーが判断した場合。
 - ・ 試合場外へ転落または転落するもしくは試合場外へ同じ体制が維持できない形で出てしまったとレフリーが判断した場合。
 - ・ その他レフリーがブレイクのコールが必要と判断した場合。
2. レフリーの試合中のコールは以下の通りである。
- ・ 「ファイト」－試合開始、試合続行を告げる時。
 - ・ 「アクション」－試合中膠着状態の競技者に動きを促す時。
 - ・ 「ブレイク」－お互いの体を離しいったんスタートポジションに戻す時。
 - ・ 「ストップ」－試合を止める時。
 - ・ 「ストップ・ドントムーブ」－試合を一時中断し、競技用具の整備や選手の状態の確認が必要と判断した場合。

第六条 セCOND・タイム

【A・C 共通】

- 1.セコンドは 1 名もしくは2名(主催者決定)までとする。尚セコンドは試合中試合進行の妨げになる行為、発言、相手競技者またはセコンド、レフリーに対する侮辱、罵倒行為をしてはならない。セコンドがそれらの違反行為を行った場合はセコンドについている競技者に反則が告げられる。
- 2.試合タイムはレフリーのストップの声により停止し、ファイトのコールにより開始される。それ以外はランニングタイムとする。

第七条 判定

1. 勝敗がつかないまま試合を終了した場合 3 名の審判員で判定を行う。
2. 3 名のうち 2 名以上が支持した競技者の判定勝ちとする。
3. トーナメントの場合マスト判定となる。
4. 主催者の判断により判定無しの試合が行われる大会もある。

☆当日計量オーバーの場合再計量を試合開始 1 5 分前までに行い再度計量オーバーの場合試合が行われない場合がある。試合が行われた場合、勝利しても参考記録にしかない。

☆当日のキャンセルや無断欠場、代替選手選出無し等の行動を取った選手は対戦相手に多大なる迷惑をかける事となります。絶対にしないようにして下さい。もしその様な行動を取った場合、今後の JMAF 大会参加をお断りする場合もございます。